

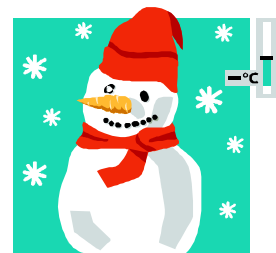
二条中学校便り

第 1 7 号

平成 1 9 年 1 月 1 2 日

京都市立二条中学校

～晴れやかに～新しい年のスタートを切ろう!



新年の初日1月9日の朝は、新生徒会本部と後期環境委員会の取組である「あいさつ運動」の元気な声から始まりました。あけましておめでとうございます。今日12日の放課後は同じく環境委員会と生徒のボランティアによる落ち葉拾いにも取り組みます。今年は暖冬かと思われていましたが、年末から雪がちらつく日も出てきました。やはり一年中で最も寒い時期ですが、こうした生徒たちの元気な取組で心も温かくなります。2年生は9日からの3日間、初めての学習確認プログラムに挑戦しました。今年は最高学年になるという実感を少しもったのではないのでしょうか。さあ新たな抱負を胸に、毎日の学校生活を再開したいと思います。

1月16日にはこの4月に入学予定の新入生説明会が行われます。また1月15日からは1・2年4組難聴学級の長期交流学习が始まります。4組の生徒がそれぞれの進路や自分の目標を考えた1組～3組でいっしょに学習をします。落ち着いたけじめのある学習環境の中でともに学びあえる仲間として成長してくれることを期待します。

3年生にとっては、年が明けてまさに進路決定の正念場を迎えています。来週からは入学試験などに際しての面接練習が始まり、1ヶ月をきった私立高校等への出願手続きも始まります。今のところ本校ではインフルエンザなどははやっていませんが、この寒さの折健康には十分注意して日々を過ごしてください。

各分野での活躍！おめでとうございます！

京都市幼児・児童生徒作品の優秀者

1年生 10名

3年生 5名

全国中学生人権作文コンクール京都大会佳作 3年生女子

京都新聞ジュニア杯 大賞 3年生女子 2年生女子

吹奏楽部 アンサンブルコンテスト

銀賞 打楽器八重奏 銅賞 金管七重奏



1年生は先月から取り組んだ人権学活と学年テーマ「伝えあおう、言葉と心」カナリータイムの一環として24日にリバティ大阪 大阪人権博物館に校外学習を計画しています。ご家庭でも話題にいただければと思います。

体育館の工事に関するお知らせ

プリントでお知らせしている通り、1月10日から3月20日までの予定で体育館全面改修の工事が始まりました。体育館と本館との間が狭くなりますが、安全確保に努めて進めたいと思いますので、よろしく願いいたします。



1月9日全校集会 学校長の話より

皆さん、新年おめでとうございます。西暦2007年、平成19年を迎えました。年頭の挨拶とともに今年の私の決意をお話します。まず、今年一年が私たち一人ひとりにとって健康で幸福であるとともに、二条中学校にとっても最良の年となるよう、みんなで力を合わせて努力することを誓いたいと思います。そして、新時代の学校づくりに向けて、生徒と教職員とが叡智を傾け鋭意取り組むことをここで宣言したいと思います。

詩人で書家の相田みつをさんはあたらしい門出をする者には新しい道がひらけると言いました。

まず、去年の一年間を振り返ってみます。西暦2006年平成18年には、私達にとって「目の前にある学校の危機」とも言えるいじめ問題が全国各地で起こりました。校種を問わずにいじめによる自殺者が出たことは、マスコミでも社会問題として大きく取り上げています。毎年年末に清水寺で行われている「今年の漢字」には「命」が選ばれ、森貫首によって「命」が大書されました。この字が選ばれた理由として、「秋篠宮家に男子が誕生した一方、いじめや生活苦で自らの命を絶ったり、虐待で幼い命が失われたりする事件が相次ぎ、命の重みや大切さを感じた人が多かったようだ」とマスコミは報道しています。

ところで、皆さん方は新しい門出を迎え、新鮮な気持ちで今ここに立っていることと思います。誰もが世の中が安心・安全に暮らせ、未来に向かって希望に満ちた年であることを願っているに違いありません。私は相田みつをさんが表現したように未来に向け「新しい道」が何人にも開かれていることを誰もが信じ、今年の最初の一步を個々に力強く歩み出してほしいと願っています。

昔から私たち日本人は総じて子供好きでした。ていねいに教育する民族であると外国人から驚きの目で見られていたのです。16世紀後半、京や近江などで活動したイエズス会の宣教師であるルイス・フロイスは、その著書『ヨーロッパ文化と日本文化』などの中で、「われわれの間では普通鞭（むち）で打って息子を懲罰（ちょうばつ）する。日本ではそういうことは滅多に行われぬ」「言葉で戒（いまし）め六・七歳の小児に対しても七十歳の人に対するように、真面目に話して譴責（けんせき）する」などと書き記しています。良き日本の文化を、私たちが現代に引き継げるよう、大人も子どもも真摯に努力する時代が来ているといえます。

さて、今日からは平成18年度の二学期（後期）の後半です。それは同時に18年度を総決算する学期を意味します。昔から「首尾（しゅび）が照応（しょうおう）する」と言って、物事の初めと終わりがうまく相応じて物事は完成するものだと考えられてきました。

昨年4月に18年度がスタートし、私達はそれぞれの目標を立てました。皆さん方一人ひとりの目標、学級の目標、学年の目標、生徒会の目標などいろいろあったことと思います。それらの目標を各時期ごとに振り返り、形成的に積み上げ取り組んできました。そして、ここからは総仕上げのために最後の努力をすることを求められています。特に3年生の皆さんにとっては、中学校生活最後の期間であり、自らの進路を決定する時期です。自分の持っている潜在能力を総動員して自らの関門を突破する力をつけてください。また、1・2年の皆さん方にとっては、それぞれの学年を中締めする期間であり、数値の上でも目に見える結果を出してほしいと思います。

最後に、私が皆さん方に「頑張る」ための呪文をお教えます。冒頭に紹介した相田みつをさんの詩から再び引用します。「本気」という題の短い詩からの引用です。

本気

なんでもいからさ 本気でやっごらん
本気でやれば たのしいから
本気でやれば つかれないから
つかれても つかれが さわやかだから